店頭から「こんにちは」
第137回

高齢者も普通に使いこなす コロナ禍でスマートフォンを購入

販売情報を集積するシステムを搭載したPOSレジ。お店で、その入れ替えがありました。インボイスへの対応、旧レジのリースの終了とが重なり、入れ替えようと思ったのです。

進むキャッシュレス化

これだけＩＴ化が進んでくれば、追いつくのも大変ですが、時代の流れには逆らえません。

以前のレジは、私の要望に添ってソフトがアレンジされていたので、本当に使いやすいものでした。データも取り出しやすく設計されていて、私でもデータを加工して使うことができたのです。

ただ、登録商品データが、旧レジから完全移行されなかったので、不備を発見するたび、商品登録の修正を、いまだにしています。

クレジットの決済端末も、入れ替えになりました。レジと連動しているので、ラクです。

種々のＱＲ決済も、徐々に認可がおり次第、使用可能になっていきます。

ＱＲ決済のポイントなども使えるようになったら、ややこしくなりますが、国の政策でカードやスマートフォンで支払いができるように進めているのです。

店頭でも、急速にキャッシュレス化が進んでいるように感じます。

高齢者もＩＴ化の時代に

何年か前の講演会で、「これからは、ＳＮＳ（ソーシャルネットワークサービス）を使って、薬局から情報発信していく必要がある」と講師の先生が力説されていました。当時、スマートフォンを持っているのは、若い人と機械物好きの人くらいだったものです。

ちなみに、コロナ禍の影響で、お孫さんの顔を見られない状況が続き、何とか写真や動画で孫の顔を見たいという必要に迫られて、スマートフォンを買った人が多いようです。キッカケが何であれ、高齢者も今や、普通に持っている時代になりました。

役所などの相談予約も、スマートフォンでしなければならないので、「操作方法を教えてください」と来局される方も散見されます。

さて、行政が進める、『商店街等買い回り促進事業　デジタルスタンプラリー』が実施されました。過去に商店会で割増商品券を発行する事業がありましたが、商店会が存在しない町の商店にはデメリットしかなく不評だったものです。

今回は、「その他の商店」が設定され、改良された結果、広く大勢の人が利用したので、当初の予定より早く終了してしまいました。

スマートフォンを持っている人に、スタンプラリーについて教えると、知らなかったという方が多く、早速店内で自分の機器に登録、その場で使っていく人も。

実は、「登録が面倒」という人に、登録のお手伝いもするのが、機械好きの薬剤師の仕事なのです。

宮川薬局（宮城県仙台市）代表
薬学博士・薬剤師
みやがわとしじ
宮川季士先生

プロフィール

1976（昭和51）年、東北薬科大学（現・東北医科薬科大学）卒業。'78（同53）年、同大学大学院修士課程修了。'87（同62）年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「紫外線には、お気をつけください」